

歴史と伝統文化のまち「成田」には、さまざまな分野で活躍した人や郷土の発展のために尽くした人がたくさんいます。先人たちの生き方からふるさと成田の歴史に触れ、未来へ大きく羽ばたく指標となれば幸いです。

第6回 福沢諭吉

福沢諭吉という人

福沢諭吉は、天保5(1835)年、大坂堂島(現在の大阪市福島区)の中津藩蔵屋敷で豊前中津藩の下級藩士であった父百助、母於順の次男として生まれた。名前の由来は、儒学者でもあった父が『上諭条例』を手に入れた夜に生まれたためといわれている。諭吉が1歳6カ月の時に父が急死したため、天保7年、母子6人で中津(現在の大分県中津市)に帰藩した。そこで5歳頃から藩士に漢字と一刀流の手ほどきを受け始める。初めは、読書嫌いであったが、すぐに実力を付け、さまざまな漢書を読みあさり、漢籍を修めた。

安政元(1854)年、19歳で長崎へ遊学に出て蘭学を学んだ。黒船来航で砲術の需要が高まり、オランダ砲術を知るためにオランダ語を学ばないかと兄に誘われたのがきっかけであった。翌年、大坂で緒方洪庵が開いた適塾に入門。同3年、兄が病死し家を継いだ。適塾に戻り、同5年、藩命で江戸中津藩屋敷に蘭学塾を開いた。これが後の慶応義塾に発展する。同6年、開港間もない横浜を訪れた諭吉は、オランダ語が通じなかったことで必死に学んできた蘭学の無力さを痛感し、以後独学で英学に取り組んだ。

万延元(1860)年、諭吉は咸臨丸の艦長の従僕として渡米、文久2(1862)年、遣欧使節団に随員として欧州6カ国を歴訪。慶



上/福沢諭吉の著書『学問ノススメ』
(市立図書館所蔵)
左/長沼下戻記念碑(長沼)



国立国会図書館所蔵

天保5年～明治34年(1835～1901)
摂津国大坂堂島(現在の大阪市福島区)に生まれる。思想家、教育者。長崎で蘭学を学んだ後、江戸で蘭学塾(後の慶応義塾)を開く傍ら独学で英学を勉強した。主な著書に『西洋事情』『学問ノススメ』などがある。

応2(1866)年には、洋行経験を基に『西洋事情』初編を刊行した。また、同4年、年号にちなみ塾名を慶応義塾とし「商工農士の差別なく」洋学を志す者の学習の場とした。

明治5(1872)年、前年の廃藩置県を歓迎した諭吉は、国民に何をなすべきかを説く『学問ノススメ』初編を著した。この書は当時の人々に受け入れられ、同9年の第17編まで書き続けられた。総発行部数は340万部といわれている。これにより、諭吉は啓蒙思想家としての地位を確立した。

長沼払い下げと長沼学校創設

当時、埴生郡長沼村(現在の長沼)周辺には、「長沼」という沼があり、村民の重要な生活資源であった。明治政府の政策により、沼が国有地に編入されると、長沼村は漁業利用権に直接影響を受けた。村民の代表の一人である小川武平が明治7年12月、諭吉に窮状を訴えた。諭吉は、自ら県令(現在の県知事)の柴原和に書簡を送るなどして「長沼」の払い下げを願い出、所有権回復を支援した。

諭吉はこの事件をきっかけに、村民の教育普及のため、同14年、500円の拠金をし、長沼学校の建設に協力した。

同34年2月3日、脳出血のため66歳で永眠。長沼学校跡地には長沼保育園、福沢諭吉記念こども館が建設され、長沼市民の森公園には、長沼下戻記念碑が建っている。

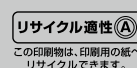
編集後記

今年もいろいろなことがありました。私が最も印象に残っていることは、うなりくんがゆるキャラグランプリでグランプリになったことです。イベントの取材先などで「うなりくんがグランプリになったんだよね、すごいね」という声をよく聞くようになりました。応援をしている身としても、とても誇らしく思います。さまざまなイベントやテレビなどでうなりくんを見かけたら、ぜひ応援してください。

平成29年12月15日号 No.1353

成田市のホームページ

<http://www.city.narita.chiba.jp>



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす用紙、誰にでも読みやすいUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しています。